

鍼灸師 榎本 守

みなさんは、神経痛と云うとどのようなものを連想するでしょうか。一般的には、寒い時や冷やした時など、また疲れた時に足が痛くなる坐骨（ざこつ）神経痛や胸が痛くなる肋間（ろっかん）神経痛などを思い浮かべられると思いますが、頭が痛くなる神経痛があるのをご存知でしょうか。これは、大後頭神経痛といい、首の後ろから後頭部をとおり頭のてっぺん近くまでチクチク・キリキリと痛んだり、神経の走行に合わせて皮膚感の異常が出たりします。この神経痛は、後頭部の毛のはえぎわ付近を押すととても痛い所がありますので、容易に大後頭神経痛と推測することができます。この神経痛は下を向いてする仕事に従事している方に多く、また精神的、身体的ストレス（悩み事・心配事・対人関係のゴタゴタ・深酒・徹夜仕事・疲労等）、天候等がひきがねとなり首のうしろにある神経が過剰に興奮して引き起こされます。また、首や肩がいつも凝っていたり、首の骨の変形や交通事故後のムチウチに後続して発症することも多く見られます。一般に病院での治療は、鎮痛剤の服用や痛いところに注射をします。また、当院では首や肩などの筋肉への血行促進を目的に軽い湿性マッサージ（強く押すのは良くありません）を行い、首の筋骨の調整を致します。それでも、鎮静しないときは、はり治療にてほとんどが軽快致します。いずれにしましても、脳内病変と勘違いするほどご本人の痛みは尋常ではないので、疼痛発現初期より積極的に治療することをおすすめ致します。

以上